

不織布展張、網室栽培によるラワンブキの害虫忌避効果、及び抑制・促成栽培の効果確認試験



展張直後(4/24)



2012/04/24



2012/04/24



2012/04/24

試験目的

不織布展張、網室栽培によるラワンブキの害虫忌避効果、及び抑制・促成栽培の効果について検証する

試験作物及び品種

ラワンブキ

試験資材及び数量(規格)

【防虫】①パオパオ (5m×100m)
 【防虫】②青パスライト (4m×30m)
 【促成栽培+防虫】③ダイオソフト(0.6mm目合い)
 【抑制栽培+防虫】④サンサンハイバールクール

慣行資材

被覆なし

資材使用期間

パオパオのみ 12月中旬～5月中旬
 青パスライト 4月下旬～5月中旬
 網室 4月下旬～7月中旬

試験区面積

不織布は幅約3m×長さ15m
 網室は、間口1.8m×長さ5.4mのミニハウスに被覆



生育状況



試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

パオパオ「M」杭は、太くて柔らかいため刺しにくく、針金の杭の方が作業性が良い。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育のみを見ると、未被覆区、試験品①②使用区ではほとんど差は見られなかった。

一方、③ダイオソフトで促成、④サンサンハイバールクールでは抑制の効果が見られた。

(3)資材の優位点

ラワンブキは、5月～6月にかけて急激に成長し、収穫期間は6月の約1ヵ月しか行われぬ。特に生ブキは1年で約1ヵ月しか流通できないこともあり、抑制栽培や促成栽培を行うことによって出荷期間が長くできれば有利販売に繋がる。

また、製品歩留りにおいては、害虫の影響による低下が重大な問題となっており、不織布やネット展張による効果的な害虫忌避が求められている。

今回の試験においては、不織布展張及び網室栽培による害虫忌避効果が見られた。

更に、網室栽培を行った2試験区のフキの生育においては、はっきりと抑制・促成の効果が表れた。

(4)資材の問題点

フキの生育には透水性が重要であり、未被覆区と不

織布展張区では生育にそれほど差が出なかったことから、透水性にそれほど問題は無いと思われるが、促成効果については確認ができなかった。

今後、不織布や網室栽培を行っていくにあたり、資材の耐久性や導入コストの低減(特に網室)について検討が必要。

JA担当者の感想(田口主任)

フキの害虫被害の軽減については、当農協では非常に大きな問題となっており、フキの歩留りや取扱高に大きく影響している。

今回の不織布展張と網室栽培においては、数本の各試験区毎の調査では一定の防虫効果が見られた。害虫がフキに着くタイミングなどは特定されていないが、降雪前の展張も、雪解け後の展張でも共にある程度の効果があったように思われるが、もう少し詳細に害虫の侵入プロセスを解析し、効果的な資材の使用ができればと思う。

また、促成・抑制効果についてもはっきりと差が現れたことは良かった。資材の初期導入に掛かるコストや、5月・7月販売による利益、フキの品質の影響なども含めて、今後の栽培方法について考えていきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。